

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	社会思想史B		
英文授業科目名	History of Social Thought B		
開講年度	2009年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	庄司 俊之		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
JZM04216@nifty.com	

【主題および達成目標】
<p>思想は社会のなかから生み出され、また何らかの影響を社会のほうへ投げ返す。したがって社会思想史の主題とは、思想をつうじて社会や歴史を学ぶこと、あるいは特定の社会的・歴史的状況のなかでいかなる思想が要請されたか、されるのかといった点を学ぶことにある。</p> <p>本年度の講義では前期の「A」で、20世紀における西欧の全体主義を概観し、そして後期の「B」では、昭和前期、戦前の超国家主義運動を取り扱う予定である。もちろんAだけの受講、Bだけの受講も可能だが、年間をつうじての主題はファシズム経験の諸相を理解することにある。これは戦後世界のスタート地点を確認する作業であり、また、それは単なる過去の回顧という以上に現代を照らし出す作業ともなるはずである。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
とくになし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
社会思想史A

【教科書等】

参考書：橋川文三（筒井清忠編）『昭和ナショナリズムの諸相』（名古屋大学出版会、¥5250）

このテキストは高価なため、購入は各自が判断すること。講義に必要な部分（本書所収の論文「昭和超国家主義の諸相」など）は適宜コピーして配布する。

また、前期に引き続いて下記を参考書とする。

参考書：杉田敦「権力(思考のフロンティア)」(岩波書店、1470円)

【授業内容とその進め方】

後期のBでは政治思想史家、橋川文三による戦前の超国家主義論をメインに解説していく。

講義では最初に、橋川の師にあたる、戦後を代表する政治思想史家、丸山眞男による超国家主義論を概観する。その論文こそが戦後日本の思想を方向づけ、戦前をまるごと否定する論法を準備したのだった。だが、そのシンプルさゆえに、丸山は超国家主義を単純化しすぎるという問題を残してしまう。そこでつぎに講義の本題として、橋川文三による超国家主義研究を概観していく。師・丸山が戦前の思想を一枚岩的に捉えたのに対して、橋川はその多様性をひとつずつ追いかけた。そこで明らかになるのは超国家主義運動における革命性と解放への志向性、およびその暴力性といった両義性であり、そうした運動が挫折した瓦礫のうえに戦時体制が築かれたといった歴史の理解である。

ここで扱う項目や人物については下記キーワードを参照のこと。

従来は丸山的な理解のもと、超国家主義は単なる悪玉として描かれてきた。だが、丸山と橋川（そして前期で扱ったアーレント）の対比から見えてくるものは、問題のより複雑な位相ということになるだろう。

【授業時間外の学習（予習・復習等）】

とくになし

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

2 / 3以上出席した学生を評価対象とする。評価は、最後に提出してもらうレポートによる。

レポートの課題は未定だが、講義内容の要約、あるいは講義と関連した自由研究など、いくつかのオプションを用意する予定である。

評価基準は、きちんとした作文ができていれば「可」とし、レポートの体裁をなしていないものを「不可」とする。「可」以上については、キーワードの適切な理解度に応じて、順次「良」「優」としていく。とくに自分の言葉で語りなおし、理解が血肉化していると認められるもの、独創性のあるものを「秀」としたい。

【オフィスアワー：授業相談】

とくに設けない。質問等は電子メールで受けつける。

電気通信大学 平成21年度シラバス

【学生へのメッセージ】
ある程度予備知識があったほうが授業に興味もてるかも知れませんが、知識の詰め込みが主眼ではありませんので、その点をご安心ください。

【その他】
とくになし